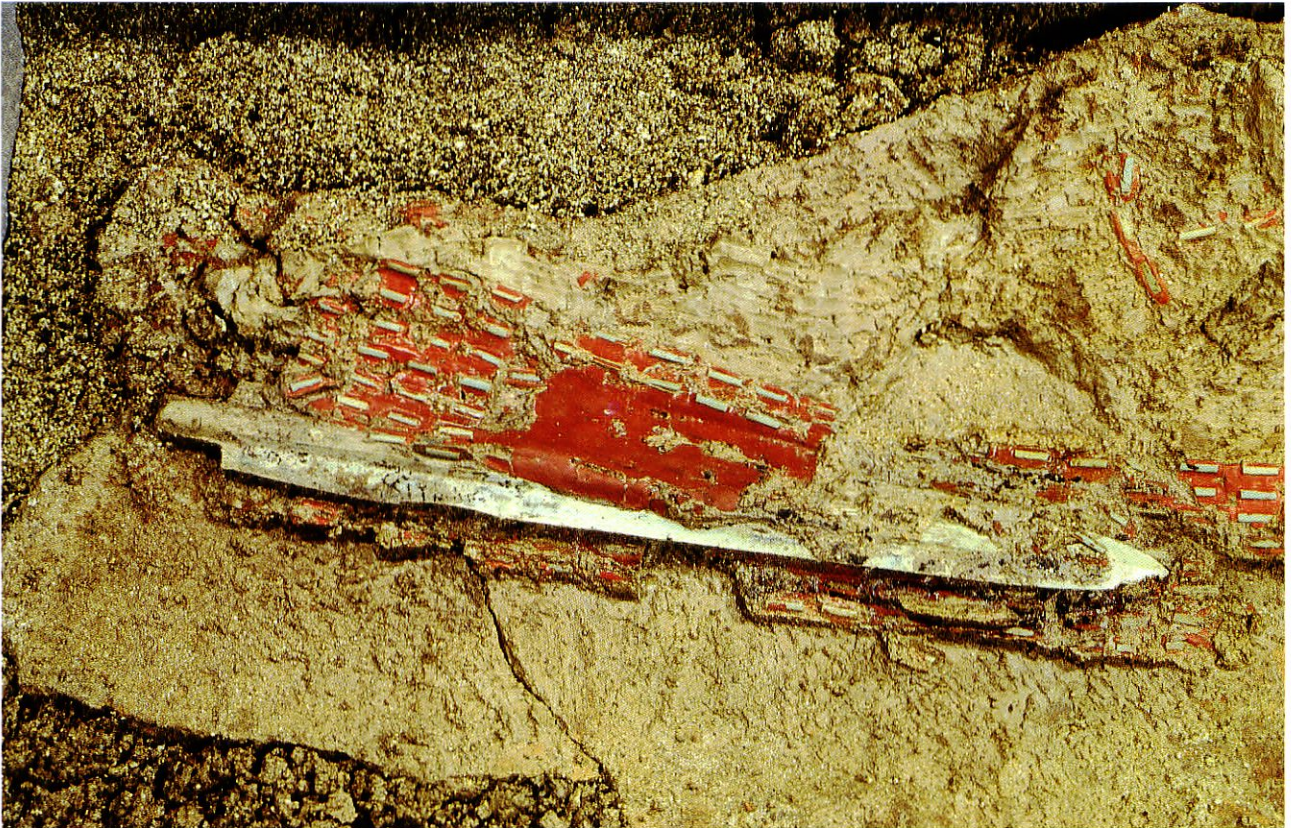


ゆ び ほんむら
柚比本村遺跡2

鳥栖市教育委員会



玉で飾った銅剣の鞘（赤漆玉鈿装鞘付銅剣：国重要文化財）

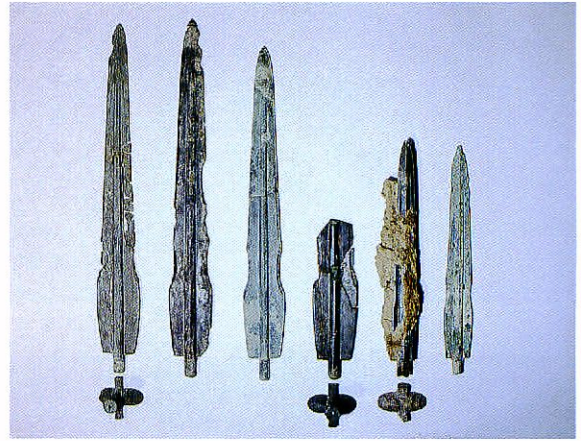
弥生時代中期前半（約2100年前）の甕棺墓から玉で飾った銅剣の鞘（赤漆玉鈿装鞘付銅剣）と銅剣7本と青銅製把頭飾（剣の柄頭の飾り）2点、後期前半（約1900年前）の甕棺から鉄剣1本とガラス製勾玉が出土し、国重要文化財に指定されています。

赤漆玉鈿装鞘は、長さ41.5cm、幅7.5～7.0cmぐらいに復元されます。わずかに尻すぼみになった長方形で、断面が凸レンズ形をしています。また、全体を朱漆で仕上げしており、薄く長方形の板状に加工された碧玉（長さ約11mm、幅約2mm、厚さ約0.8mm）を8列20行程度に整然と飾り付けています。ただ、上面の一部（装着時の側面）には玉が貼られていない部分がありますが、ここには鞘を装着する釣り手があったとおもわれます。配置された玉の数は、134個以上、推定できる総玉数は272～296個です。

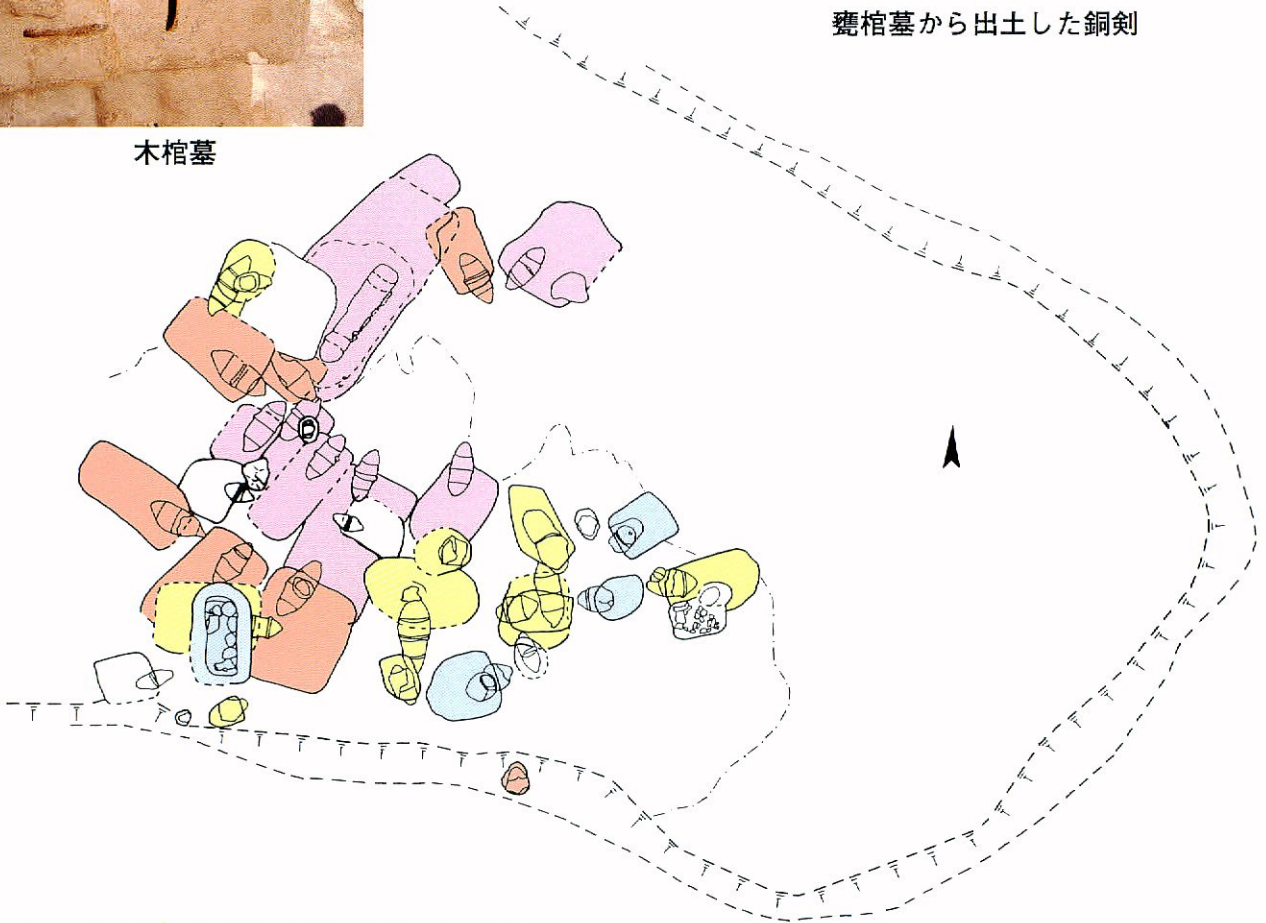
鞘の漆塗は分析の結果、鞘本体は木製で、それに板状の碧玉を貼り付け、その隙間をベンガラ漆を3回にわたって塗った後、朱漆を上塗りし、最後に玉の表面の朱漆を剥ぎ落として仕上げています。



木棺墓



甕棺墓から出土した銅剣



甕棺墓群



- 弥生時代中期初頭（約2100年前）
- 弥生時代中期前半
- 弥生時代中期中頃（約2000年前）
- 弥生時代後期前半（約1900年前）

墓域遺構配置図